

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170900573		
法人名	株式会社 関東メディカル・ケア		
事業所名	グループホームフローラ久喜		
所在地	埼玉県久喜市吉羽1-6-29		
自己評価作成日	令和 5年 3月 17日	評価結果市町村受理日	令和 5年 6月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 5年 3月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・残存能力を活かした介護 ・生活リハビリ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念を実践に反映している。例えば理念の一つに「安心・希望・自立」がある。食事に箸を使い自分のペースで食べてもらったり、衣類の上げ下げを自分でしてもらう等、すぐに介助せずに行える事はしてもらうように見守りをして、自立に向けた支援をしている。また、生活リハビリ継続のために、食器洗いがしやすいように軽い物だけを洗ってもらったり、適量の調味料で味付けできるように事前に取り分けたり工夫をしている。これは掃除、洗濯干し等の家事全般が対象で、作業後、自分がした事と理解してもらうために、名前を呼んでお礼を伝えている。そして、感染症対策をして、ドライブや買い物、散歩等で積極的に外出支援をしている。その事で、衣料販売店で自ら試着して服を選び、散歩で地域住民と言葉を交わしたり、遊んでいる人たちを見て職員と昔話をしたり等の当たり前の生活を営むことができている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・コロナ禍前は、ボランティアなどで近隣との交流もありました。	会社の理念は、入職時と会議において具体的に伝え、利用者のできる事は見守る等支援に反映している。管理者は、日常的に理念が支援に反映しているか確認しており、気になる時はその都度声かけしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・現在も近隣の散歩を実施しており、すれ違いながら地域の皆様と簡単な挨拶などで交流しております。	市の広報誌で地域情報を収集している。散歩時、職員は地域住民に積極的に声をかけて、事業所を知ってもらおうとしている。利用者も地域住民と言葉を交わし、遊んでいる姿を見て昔を思い出すきっかけとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・現在未実施		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・コロナ禍のため、書面でのやり取りを実施している	昨年はコロナ禍のために開催を控えていた。今後、書面開催をする予定がある。事業所の行事やヒヤリハット等を記載した議事録を作成し、行政やオーナー、地区班長、社会福祉協議会、家族に郵送したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・社会福祉協議会の担当者と連携して生活保護受給者の受け入れを実施している	管理者は着任したばかりで日が浅いが、市と関係を築くために事業所のお便りを配布し、利用者や行事等の様子を伝えたいと思っている。空室や介護度の確認、感染症等の連絡などで連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・定期的に社内研修を実施している ・身体拘束が必要な入居者様に関しては、ご家族様に説明しご納得していただいたうえで実施していた(R5.3.13まで)。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・社内研修を実施し取り組んでいる ・定期的に職員と施設長が面談しストレスのチェックをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・社内研修を実施し取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・コロナ禍のため、可能な範囲で実施中。	利用者に、外出先や献立の希望を聞き反映するようにしている。家族の面会時や電話で聞く機会を持っている。家族が思いを伝えやすいように、連絡する職員は特定せず、信頼関係のできている職員がおこなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・コロナ禍のため、可能な範囲で実施中。	面談を実施するとともに、意見がある場合は、書面をもって管理者へ提出してもらっている。行事の内容や業務内容について職員と相談しながら実施し、事業所で解決が難しい場合は、本社と相談する仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・実践中。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・介護実践者研修の受講等を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・コロナ禍のため、可能な範囲で実施中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・残存能力を活かして、役割を担っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・コロナ禍のため、必要に応じて電話連絡を実施。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族様へ毎月写真を送付している。 ・電話の取次ぎやガラス越しの面会も実施。	今までの関係は、入居時や家族から聞き把握している。友人の面会では、驚きつつもうれしい表情の利用者の姿が見られる。以前の習慣が継続できるように、雑誌の購入等の支援をするとともに、なじみの食品を提供している。	面会制限がある中で、家族に利用者の様子を伝え安心してもらう事で、今以上に関係を保っていくことを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・コロナ禍のため、可能な範囲で実施中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・必要に応じて実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・出来る範囲で実施中。	介護支援専門員が中心となり、職員と共に意向を聞き、申し送りノート等で共有している。利用者の理解しやすい言葉を使う等、意向を取る工夫をしている。意向の実現に向けて、職員間で話し合い後、介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・出来る範囲で実施中。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個人の意思を尊重しながらも、個々にお手伝いをしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月フロア会議を実施中。	モニタリングは、介護支援専門員や居室担当者等が定期的実施する。会議に参加できない職員の意見は事前に書面にし、歯科衛生士や薬剤師の意見も参考に作成する。状態変化があった場合は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎月フロア会議を実施中。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・出来る範囲で実施中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ禍のため、可能な範囲で実施中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・実施している。	かかりつけ医の選択ができる。訪問診療時は職員が付き添い、診療内容等を書面で共有している。家族と医師の面会も可能である。今後、通院時の担当医に利用者情報を提供し、連携を密にしようとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・出来る範囲で実施中。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・出来る範囲で実施中。	看取り対応はしていないが、入居時に事業所として、できる事とできない事を伝えている。状態変化を医師が判断後、管理者が今後について家族と相談する。転居先に、書類とともに日常生活の写真も添付して、利用者情報を詳細に提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・社内研修を実施し取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災想定訓練を定期的実施している。 ・避難場所を把握している。	避難誘導は、利用者の身体状況を考慮しながら、全職員に申し送りや口頭で周知している。今後、地域連携を深めるため、近隣住民に対し、利用者について理解をしてもらえるよう取り組みたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・実施している。	管理者が日々の様子を見て、職員に自分の立場に置き換えて支援するように声かけしている。利用者の思いを否定せず、できる限りやりたいことはしてもらい、呼び名や申し送り等に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・可能な範囲で実施中		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・可能な範囲で実施中		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・可能な範囲で実施中		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・個々の残存能力に合わせて、可能な範囲で実施中。	利用者が意欲的に参加できるように、個々に合わせた配慮や作業後に、お礼を伝えている。食事に集中できるようにBGMを選定し、希望の献立と一緒に作り提供する事で、食欲を高め関心が持てるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・実施している。	会議等で支援方法やパッドの選定について話し合い、排泄チェック表を活用して、なるべくトイレで排泄ができるように支援している。声かけや汚してしまった場合も、羞恥心を感じさせないような声かけに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・可能な範囲で実施中。	脱衣室使用中は、不用意に開けないように配慮し、希望により同性介助をおこなう。入浴拒否がある場合は、声かけの職員変更や時間を空ける等の工夫をしている。今後、入浴剤を使って香の癒しを提供したいと考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・可能な範囲で実施中。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍のため可能な範囲で実施中。	家族との外出は、通院のみとなっている。公園や道の駅へのドライブや職員との散歩は、ひと月の中で全員が行けるように配慮している。道の駅では、自分で飲み物を選び、楽しんでいる。玄関や庭での外気浴では、とても明るい表情の利用者の姿が見られる。	コロナ禍でも、工夫して外出支援をしている。今以上に、家族や職員と1対1で外出する機会を多く持つことにより、外出がコミュニケーションを深める場になることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・可能な範囲で実施中。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・可能な範囲で実施中。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・出来る範囲で実施中。	フロアを広く使えるように、机や物品等の配置や夜間居室に光が入らないように明るさを配慮している。テレビ番組は、利用者が不愉快な思いをしないように考慮し、好きな音楽等を映している。塗り絵などをやりたい時は、職員がすぐに提供するようになっている。	日々外気浴等で戸外に出て、季節の移り変わりは感じられるが、長い時間過ごす屋内でも、今以上に季節感が得られるようになることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・可能な範囲で実施中。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・実施している。	持ち込んだ机で本を読んだり、写真や置物を飾っている。安全面から、動線の確認をし家具等の配置を考慮する等の対応をしている。利用者自ら掃除ができるように、用具等を準備して声かけの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・実施している。		